

科目 ナンバー	05PS205	対象学科・ コース	福祉情報学部	専門・総合・教職	専門科目
				配当学年	2年以上
主 学 科	福祉情報学部	要 件	選択科目	授業区分	
授 業 科 目 名	心理統計学			担当形態	単独
	Psychology statistics			担当教員	阿部 夏希
開 講 期	前期	単位数	2単位	オフィスアワー(常勤教員のみ)	

添付ファイル

② 授業方法

■ 講義 ■ 演習 □ 実技 □ その他

③ 授業形態

□ 対面 □ ハイフレックス ■ オンライン □ オンデマンド

④ 授業のテーマ及び到達目標

本授業の到達目標は以下の通りである。

1. 心理学研究においてよく利用される基礎的な統計手法について、それらの概略を理解することができる。
2. 必要に応じて基礎的な統計手法を使い分けることができる。
3. 統計分析を行うために必要なソフトウェアを使用することができる。

⑤ 授業の概要

実証科学である心理学研究では、目に見えない心のはたらき（心理的構成概念）を測定するために実験や調査を行い、これを分析することによって人間の行動の背景に関する仮説や理論の正しさを主張する。心理統計学では、取得した①量的データを分析するための手法を学ぶほか、②統計学の基礎的知識を習得することを目指す。①の統計手法を学習する際は、データ分析のソフトの一つであるHADによる演習を行う。

⑥ 対応するディプロマ・ポリシー（専門科目のみ）

- 知識及び技能の習得
- 思考力・判断力・表現力等の養成
- 主体性・多様性・協調性の養成
- 地域貢献に関する意識の醸成

https://www.shunan-u.ac.jp/faculty/diploma_curriculum_policy/

⑦ 教科書

書籍無し

⑧ 参考図書

1冊目

書籍名	Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単 ツールHADで基本を身につける	発行年	2018 年
著作者名	小宮あすか・布井雅人	出版社	講談社
金額(税込)	3,080 円	I S B N	4061548123
学内販売	なし		

2冊目

書籍名	よくわかる心理統計	発行年	2004 年
著作者名	山田剛史・村井潤一郎	出版社	ミネルヴァ書房
金額(税込)	2,950 円	I S B N	4623039994
学内販売	なし		

3冊目

書籍名	心理学のための統計学入門：ココロの データ分析	発行年	2014 年
著作者名	川端一光・荘島宏二郎	出版社	誠信書房
金額(税込)	2,310 円	I S B N	4414301874
学内販売	なし		

⑨ 履修上の注意	【先修条件科目 必須】	
	【先修条件科目 推奨】	
	【持参物】	Excelが入っているPC
	【その他】	

⑩ 評価基準

授業への参加の度合い，課題への取り組み，課題の出来映えなどから総合的に判断するが目安としては以下のとおりである。

到達目標1～3について，一定水準以上に達していると確認でき， かついずれかにおいて突出しているところがあると認められる場合 S

到達目標1～3について，一定水準以上に達していると確認できる場合 A

到達目標1～3について，一定水準に達していると確認できる場合 B

到達目標1～3について，望ましい水準ではないが評価できると確認できる場合 C

授業への参加度合いや提出物が不十分かつ到達目標に達していないと確認でき， 評価できる条件を満たしていない場合 D

達成度は，授業ごとの小テスト（40％），中間テスト（10％），期末テスト（50％）から判断する。

⑪ 学生に対する評価

試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
60%	40%					100%

⑫ 担当教員からのメッセージ（予習・復習内容・時間にも言及）

心理統計の知識とスキルは，授業時間だけでは決して身につけません。授業の事前・事後学修以外にも，参考書籍および自主学習教材等を活用して課外での自主学習に努めてください。

⑬ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	授業方法	担当教員
1	【オリエンテーション：心理学と統計の関係性】 オリエンテーションとして，授業の進め方や受講上の諸注意等について説明する。また，心理学になぜ統計が必要なのか簡単な例をもとに解説する。	講義	
2	【記述統計①：度数分布，ヒストグラム，代表値と散布度，分散，標準偏差】 データを集めたら，まずはその特徴を要約することが重要である。ここでは図表による要約と数値による要約の方法について演習を交えながら学ぶ。	講義 演習	
3	【データの性質と尺度水準】 一口に数値といっても，学生番号の235100と重さ235100kgでは数値の意味が全く異なる。このような数値の違いを尺度水準と呼ぶ。尺度水準は分析の仕方にも影響するものであり，データを扱う上での基本中の基本となることを学習する。	講義 演習	
4	【記述統計②：クロス集計表、連関係数、散布図、共分散、相関係数】 心理学の研究では，複数の変数の関係を考えることが一般的である。ここでは2つの変数の関係を記述する方法として，図表で表す方法と数値で表す方法を演習を行いながら学ぶ。	講義 演習	
5	【標準化：標準得点，z得点，偏差値，標準偏差】 平均や標準偏差が異なる変数を比較するための方法として，データの標準化について演習を交えて学ぶ。	講義 演習	
6	【推測統計の基礎①：母集団，標本，確率変数，確率分布，標本統計量，母集団分布，標本分布，正規分布】 心理学では得られたデータの特徴をわかりやすくまとめること以外に，手元にあるデータの背後にあるさらに大きな対象に当てはまるか否かを判断する際にも統計の手法が用いられる。この回では，推測統計の基本的な考え方について解説する。	講義 演習	
7	【推測統計の基礎②：点推定，区間推定，信頼区間】 前回に引き続き推測統計に関する基礎事項を解説すると共に，標本から母集団を推定する方法について概説する。	講義 演習	
8	【統計的仮説検定：帰無仮説，対立仮説，有意水準，検定力，検定における2種類の誤り】 「男女で自尊感情尺度の得点に差はあるのか」といったように，ある条件間で母集団の値に差があるかについて，統計的に検討する方法である統計的仮説検定について概説する。	講義 演習	
9	【2つの平均値を比べる：対応のあるt検定と対応のないt検定】 2つの平均値の差を比べるt検定の方法について，演習を交えて学ぶ	講義 演習	
10	【分散分析①】 1要因の分散分析，被験者間計画，多重比較について学習する。	講義 演習	
11	【分散分析②】 2要因の分散分析，主効果，交互作用について学習する。	講義 演習	
12	【回帰分析①】 回帰分析のなかでもごく基本的な分析である単回帰分析について学習する。	講義 演習	
13	【回帰分析②】 多変量解析の分析手法の1つである重回帰分析の考え方を理解することを目指す。重回帰分析，標準偏回帰係数，重回関係数，決定係数，パス図について学習する。	講義 演習	
14	【因子分析】 多変量解析の分析手法の1つである因子分析の考え方を理解する。	講義 演習	
15	【総括】 これまでに学習した内容を振り返り、心理学統計についての理解の定着を目指す。	講義 演習	

⑭ 科目等履修制度
☐ 科目等履修生(学生以外の一般履修者 若干名)を受け入れてもよい。 ☐ 科目等履修生を受け入れることはできない。
⑮ 実務家教員担当科目に関する記載